

ドメーヌドラロマネ・コンティ社

2020 ヴィンテージレポート

以下、2020 年という特殊な一年において、ブドウ畑と私たちの日々の中で特に重要だった出来事について、例年通り簡潔にまとめた報告書である。この報告書がいつもよりだいぶ遅れて届いたとしたら、2020 年は多くの疑問を抱えることとなったヴィンテージであったからだ。（例えば、収穫開始を早めた決断は、遅らせるよりも正しかったのか？）私たちは出来上がったワインについてなるべく正確な情報を届けたいと考えており、そのためにはすべての発酵が終わるのを待たなければならなかった。ここでは、このヴィンテージをどのように造り上げたのかについての話をする。このヴィンテージの物語はもう間もなく、私たちの記憶から消え去ろうとしている。冬の間、眠っている新しいブドウの芽がすでに準備を始めているからだ。

2020 年は、人類が予期できなかったコロナウィルスが流行し、人々に多くの苦しみをもたらした奇妙で異常な年であった。しかし、神々がブドウ樹にもたらした恵みも素晴らしい年であった。

ヴィニュロンにとって何よりも忘れられないのが 2020 年の春である。世界各国の政府が前例のないウィルスに対応すべく、人類にさまざまな制約を課している間、自然は私たちが徐々に狭めていった本来の居場所を再発見するかのように自らを解放していた。

外出規制が始まると、空からは飛行機が消え、道路は閑散とし、人間の活動がなくなった。その結果、空が明るくなり、鳥の数が増え、鳴き声も今まで聞いたことがないくらい大きいことに気が付いた。花々は見たことがないような色彩で、飛行機や工場の煙はもう見られなかった。自然が幸せを表わしている。ブドウ樹もこの自然のコンサートに参加し、活力と健康を助長させた。

発芽は極めて早く、3 月 20 日に始まった。これは、2018 年と 2019 年と同じように、このヴィンテージにとっておそらく最も重要な出来事であるかもしれない。

発芽の時期が早まっているのはもちろん、ここ数年来、私たちが経験している地球温暖化、気候変動が原因である。発芽が大きな影響をもたらすのは、ブドウ樹の生長サイクルの始まりであり、それに続く、開花、ヴェレゾン、成熟、収穫のすべてのフェーズの日を決定づけるからだ。

2020 年のように天候に恵まれ、ブドウ畑で穏やかで楽に仕事ができることは滅多にない。だから、農家と生産者である私たちは、ブドウ樹とともにこの好天を最大限に利用した。この好天中は、わずかに数回雨が降っただけだったが、冬の間の豊富な雨量による水の蓄えを補って、ブドウ樹は夏を生き延びることができた。春の間はずっと注意深く過ごさなければならず、私たちを疲弊させた 2018 年とは違って、2020 年は好天に恵まれたおかげで、ニコラ ジャコブ率いる私たちの栽培チームは剪定、摘芽、ワイヤーへの固定、摘芯などの作業は余裕をもって終えることができた。また、気候変動に対応すべく様々な実験を行うこともできた。色々ある中でとりわけ、一般的な 161-49 よりも極度のストレスに強い台木を試している。さらに、この 2 年間は、仕立ての高さを徐々に高くして葉をできる残し、ここ数年続いている過度の暑さによるやけどからブドウ樹と実を守っている。

4 月から収穫まで全体的に乾燥し、暑く、時には暑すぎる天候が続いたにもかかわらず、ブドウ樹がよく持ちこたえた主な要因は、冬の間に雨が多く降ったからである。4 月から 6 月にかけては少ししか雨は降らず、8 月終わりの収穫の最中を除けば、7 月と 8 月はまったく雨は降らなかった。

気候条件の通り、開花は早かった。このステップは、ブドウ樹の成長サイクルにおいて重要な時期である。将来のブドウの受粉に有利に働くか不利に働くかは天候に左右され、収穫量、つまりはその年に生産できるワインの量を決定づけるからだ。もちろん、ベト病、ウドンコ病、腐敗や雹の被害を受けずに済んだ場合である。開花の中盤は、区画（クリュ）によって 5 月 20～23 日であった。好天に恵まれ、開花が順調に進み、理想的な比率でミルランダージュとなった。小さな実で、果汁も少ないが、収穫までに糖度がとても高くなる。すべてのヴィンテージにおいて、ミルランダージュは良い品質の印である。

風は、ブドウを育てるうえでもう一つ重要な要素だ。そのヴィンテージの品質に大きな役割を果たす。

繰り返し述べているように、イースター 1 週間前のラモーの日曜日に吹く風は、その年の風の状態を示す大事な指標となる。

今年のラモーの日曜日は一日中、北風が吹いた。ブルゴーニュに雨をもたらす西や南風とは違い、北風はブルゴーニュのヴィニキュロンにとって豊作を保証する風とみなされている。ベト病や腐敗といった、生産者を脅かす病害を防いでくれる。ウドンコ病には効果が薄く、北風がもたらす夜の冷え込みはウドンコ病の発生を助長させるが、成熟期全体を通じてブドウ樹が好む乾燥した好天をもたらすのである。

ブドウ樹が成長し、成熟がうまく進む最高の条件が揃った奇跡的な春。

ヴィニュロンなら誰もが知っているように、ブドウ樹は乾燥した暑い条件を好む。この地域においてブドウほど暑さに強い植物は他にないが、過度な暑さと乾燥は良くない。

7月25日には、おそらく2015年以降で最も美しく健康なブドウになっていた。2015年はブルゴーニュのブドウ畑のクリマが世界遺産に登録された年である！しかし、7月末以降、ブドウ樹に恩恵をもたらした干ばつと暑さは、北風の影響を受けて強くなった。毎日、容赦なく吹き続ける北風により、畑によってはブドウ樹が苦しんだが、耐性を見せてくれた。

この灼熱に近い天候は7月末から8月中旬まで続いた。この年に関わるブドウ樹、ブドウの実、そしてもちろん人間の我慢が試された。それはまるで神々がオデュッセイアでユリシーズに課した試練と似ていて、結果的にその試練は彼を強くした。2020年のブドウも同じであった！

最初のうちは、よく持ちこたえた。ヴェレゾン（果実の色づき）は、若いブドウ樹では7月23日に始まり、古樹（樹齢25年以上）では7月下旬から8月上旬に始まった。しかし、暑さによって成育が阻害されたブドウもあったため、想像していた以上に遅く、不均一であった。

その後、苦しんでいる兆候が見られた。暑さが強くなると、午後には葉が垂れ下がり、ヴェレゾンが止まっていた。それはまるでブドウの実を見捨てて、ブドウ樹が生き残るために光合成に集中しているようであった。

もちろん、丘陵における区画の位置と樹齢が大きく関係している。丘陵の上の方は土壌も薄いこともあり大変苦しんでいたが、不思議なことに丘陵の下の方でも同じであった。

丘陵の麓にあるグランクリュとプルミエクリュの土壌は一般的に深く、樹齢が十分であれば、困難な年においても、ほとんどいつも通り成熟する。収穫後の9月、雨が戻ってきた頃には、ブドウ樹の健康や活力が思っていたよりも失われていなく、灼熱の間の一時的なものであったことに気が付く。ヴィニュロンが必要な注意を払えば、ブルゴーニュのピノ・ノワールとシャルドネの耐性は凄まじい。

ブドウは株によって様々な道を歩んだ。7月下旬から8月上旬の燃えるような暑さと強い日差しの中で、一部のブドウは日焼けし、しおれたりして、干しブドウのような味がした。このようなケースは幸いにも私たちの畑では珍しかったが、発育が阻害されると同時に、日光

と風の影響を受けて成熟が素早く進み、果実に糖と酸が凝縮した。

その他の大部分を占める古樹は、光合成によって成熟は通常通り進むが、スピードアップする。例を挙げるとするならば、リシュブールの古樹のアルコールのポテンシャルは、8月10日時点で11.7度だったが、たった4日後の14日には12.7度、そして21日には13.2度となった。わずか10日で1.5度も上昇するのは、ここ5年の中でも並外れた速さである。収穫は13.5度に達した8月23と24日に行われた。また、リシュブールの同じ畑では、1房の重さが80~93gほど増えた。これは糖や酸がただ凝縮されたということではなく、私たちが恐れていたほどブドウ樹が苦しんでいなかったことを示している。冬と春に降った雨水の貯水量が、ブドウ樹が生き延び、実が成熟するのに十分であったと言える。これは人間の論理と自然の摂理を混同している私たちに対して、ブドウ樹そのものによる実質的な証明である。私たちヴィニユロンが、ブドウ品種のことを理解し、手助けする方法を知っていたとしても、気候変動に対応できただろうか？

私たち人間の話をしよう。一部の人は7月に休暇を取り、その他は8月上旬に休暇に入った。その前に収穫に必要なすべての道具を入念に準備した。

結局、休暇は短くなった。絶え間なく続く暑さと乾燥は、みんなを心配させ、ブドウ樹にも私たちにも休息を与えなかった。8月10日から収穫を始めてはならないのでは…と悩んだ。2020年は他の年と比較できない状況ではあったが、私たちは過去の経験（2003年のような年）を振り返って、ドメヌの理念と私たちが造りたいワインにとって最善と思われる選択をしなければならなかった。

この年の軸となる考え方は、熟しているが熟しすぎていないブドウを収穫すること。フェノールの熟度が100%に達していなくても仕方がない（そもそも明確な基準はなく、ブドウを試食して判断している）。私たちは絶対に、熟しすぎてプルーンやポートワインのような味のブドウは欲しくなかった。日焼けした、もしくは干からびたブドウは、収穫や選果の際に取り除いた。このようなブドウを省いたとしても、果汁のアルコールポテンシャルは13度以上を示しており、これは健康で熟度が高いことを証明している。

8月18日は、暑さと乾燥に苦しんだ3つの若木の区画の収穫を行った。他の樹はもう少し待てる。8月23日（偶然にも2003年と同じ日付）、古樹の収穫を開始した。毎日の見本採取に応じて日々変わる順番に従って、収穫を行った。

衛生面、そして自然による制約も受けた。暑さのせいで、収穫は朝7時から始まり、13時まで続いた。間に一息つくためにチームに軽食が出された。収穫そのものはいつも通りであ

ったが、衛生面でもすべての対策を行った。移動中のマスク着用、手袋、手のアルコール消毒、食事中はみんな距離を取っていた。

収穫の順番は次の通りである。

8月23、24日：リシュブール

8月25日：グラン・エシェゾー

8月26、28日：ロマネ・サン・ヴィヴァン

8月27日：ロマネ・コンティ

8月30日、9月2、3日：ラ ターシュ

8月30日、9月1日：エシェゾー

9月5日：モンラッシェ

9月7、8、9日：コルトン シャルルマーニュ

8月29、31日は夜間ににわか雨が降ってブドウが濡れたため、収穫は行わなかった。この雨は、まだ樹に残っていた収穫前のブドウに幸福をもたらした。

ドメヌでは、醸造責任者のアレクサンドル ベルニエ率いる 14 名のチームが選果台に向き合った。

全員がマスクを着用していたが、みんな機嫌を損ねることはなく、午前中の休憩時間にはフランス全土や、研修生のフェデリカの家族が営むサルデーニャのドメヌを含む世界中の美味しいワインを味わった。

醸造所に到着したブドウは素晴らしく、小さな房の小さな実は張りがあり美味しかった。果皮は黒く、厳しい気温を乗り越えたために厚みもあった。恐れていたようなことは起こらず、絞った果汁の量も十分だった。除去したブドウも少なく、腐敗の形跡もなかった。ただし、日焼けしたブドウや干からびたブドウは取り除き、いつも通り未熟で大きい房もいくつか取り除いた。今回、除去したブドウの割合は収穫量のわずか 1.5%に過ぎなかった。

醸造には全房を 90~100%用いた。発酵は問題なく始まった。キュヴェによって、発酵は 18~21 日間続き、ミルランダージュの実は発酵の終盤にしか果汁を出さないため発酵期間を長引かせることがある。発酵中はアレクサンドル ベルニエが、いつも通りルモンタージュとピジャージュを、あくまで自然な抽出の範囲内で丁寧に行った。

ブドウがドメヌに到着してから最初のルモンタージュまでの間、果汁はリッチなワイン

の兆候である暗いガーネット色をしていた。発酵が進むにつれて、私たちは果汁を試飲するたびに驚かされた。ワインの特徴として、2018 年や 2019 年ほどの力強さではなく、フレッシュかつチャーミングでエレガントな味わいである。特に酸とタンニンのバランスは想像以上で、私たちを喜ばせた。それは、私たちが収穫を早める決断をした時に一番求めていたことだから。

現在、ワインはでき上がり、マロラクティック発酵もほとんど完了している。収穫の時点で、今年のワインの出来はいいと思っていたが、その完成度は予想をはるかに超え、私たちを大いに驚かせた。

もしアルコール度数を評価の指標の一つと捉えるならば、その指標は当てはまらない。私たちもブルゴーニュの他の生産者同様、猛暑の被害を受けたブドウがワインのバランスを乱すことをとても心配していた。その心配は無用であった。猛暑と乾燥の時期は私たちが恐れていたほどネガティブな影響を与えなかった。ブルゴーニュのブドウ樹は、猛暑はそれほどではないが、乾燥を好む。そしてこの一年起こった出来事を、良いことも悪いこともすべて記憶する。それは、冬と春、そして7月の終わりまでに、ブドウがバランスよく完璧に熟するのに十分な蓄えを得られたおかげである。

私たち人間の理屈では、2018 年や 2019 年のような熱さを少し感じる豊満な結果を予想していた。しかし、2020 年は完全に違った。アルコール度数は 13.5 度に達し、力強さはあるが、顕著な特徴はやはり酸とフレッシュさである。これは、1991 年や 1997 年のような 90 年代のヴィンテージを彷彿とさせる。見事なサプライズだ。2020 年はオリジナリティもあり、ここ数年のヴィンテージの中の大きな成功の 1 つになると期待を抱いている。

2020 年を振り返って、8 月に自然が私たちに与えた大きなストレス、そしてこの新しい気候環境下で生まれたワインは、私たちに次の疑問を抱かせた。2020 年は、ヴィニキュロンとブドウ樹がともに変動を経験し、既に実践している手法に加えて新たな栽培手法を発明し、偉大で長く熟成できるが、わずかに異なる特徴を持ったワインが生まれる新たな時代の幕開けとなるファーストヴィンテージではなかろうか？

根本的に気候が変わりやすい環境の下、この地で 1000 年以上ワインを造っている生産者に対して、それは少し傲慢で、野心家、もしくは夢想家と言われるだろう。しかし、新たなブドウ栽培を発明した姿を思い描くのは確かに早すぎるが、それは決して違法ではない。“すべての夢は合法である”、あるフランス人作家はそう書いていた。（作家の名前は忘れてしまった！）